

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 26 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25244004

研究課題名(和文) 多分野複合の視点から見た日本仏教の国際的研究

研究課題名(英文) International Research on Japanese Buddhism as seen from the perspective of multiple academic fields

研究代表者

大久保 良峻 (OKUBO, RYOSHUN)

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：30213664

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 19,200,000円

研究成果の概要(和文)：5年間に国内で8回、海外で4回の研究集会を開催し、のべ70名以上の研究報告による多数、かつ多面的な議論の場を設けることができた。報告者のうち3分の1程度は40歳以下の若手研究者で、各世代が交流する場でもあった。また研究成果の社会への還元を目指して、初学者から専門研究者まで利用できる日本仏教の概説書(各章の英文要旨を含む)作成に着手し、大久保良峻編著『日本仏教の展開』を春秋社から刊行することができた。

研究成果の概要(英文)：In order to achieve our stated goals of promoting interdisciplinary scholarship and fostering ties between different generations of scholars, over the last five years we have held eight workshops in Japan and four workshops in overseas countries. We have invited over 70 speakers from relevant disciplines, one third of whom were at the age of 40 or younger. Moreover, we have published a survey of Japanese Buddhism, *Nihon bukkyo no tenkai* (Ed. Okubo Ryoshun. Shunjusha Publishing Company). The book contains extensive summaries for each chapter in English and caters to a wide audience, ranging from the interested public to specialized researchers.

研究分野：日本仏教教学史、仏教学

キーワード：思想史 日本仏教 国際的研究

1. 研究開始当初の背景

仏教学、歴史学、思想史学、考古学、文学、宗教学、倫理学、美術史学、建築学、音楽など、日本仏教を対象に研究する領域は多方面にわたるが、それぞれの分野において研究の細分化が進み、諸領域から全体を見回すことはますます困難になっている。

たとえば仏教学においては、問題意識の固定化が顕著であり、各宗派の内部で完結する「独自性」が強調され、他の領域の研究者には理解が困難な場合も少なくない。また歴史学においては、研究対象とする時代とテーマが限定され、個別具体化の進行が著しい。

研究代表者の大久保は、こうした学界全体がかかえる問題を深く憂慮して、1992年に末木文美土・松尾剛次・佐藤弘夫・林淳らと「日本仏教研究会」を結成した。10年間にわたり毎年学術大会を開催し、シリーズ『日本の仏教』を合計10冊刊行するなど、新たな人材を発掘し、また閉塞した研究史の打破を目指してきた。

2001年に同研究会が解散した後も、前述の問題点はなお解決されていないと考え、新たに「日本仏教総合研究学会」を組織し、その中心となって仏教思想研究の新たな展開に挑戦してきた(2008~2011年度は会長、その前後は理事)。年に一度の大会開催と、その成果を含む会誌刊行を毎年積み重ねることで、より学際的な議論の場を用意したのである。また、海外の研究者の協力を得て、主に海外で刊行された日本仏教研究書の書評を毎年2、3本ずつ会誌に掲載し、国際的な仏教思想研究の共有化を目指してきた。その成果は、『日本仏教総合研究』創刊号(2003年)~15号(2017年)に結実している。

日本仏教総合研究学会が10周年を迎えたのを契機として、そこで培った経験を活かし、研究活動をさらに拡充することを目指し、学会活動に中心的に関わってきたメンバーに声をかけ、新たな研究組織を構成した。日本仏教を、思想史的な観点に重点を置いて学際的かつ総合的に進めるため、仏教学と歴史学に関係するメンバーを中心に、「多分野の複合」「国際的研究」という二つに重点を置く共同研究を企画したのが、本研究である。

なお、2011年12月11日には本研究組織の研究分担者を中心に、「日本仏教の総合研究とは何か 新たな視角を求めて」と題するシンポジウムを日本仏教総合研究学会において実施している(於関西大学)。本研究は開始時点において、すでに一定の活動を踏まえて始まった。

2. 研究の目的

古代から近代までの日本仏教思想について、個別の時代や主題を取り上げて、研究集会やシンポジウムを開催したり、その成果を日本語と英語との刊行物にまとめることな

どは、既に様々な組織により行われている。本研究も国際シンポジウムの実施や、和文・欧文の出版物の発刊など、同様の目標を立てているが、本研究が既存の諸研究と本質的に異なっているのは以下の4点である。

(1)古代から近現代までの日本仏教史の全体像を見据えた上で研究を進める

本研究は、新たな日本仏教史の構築を目指した、これまでにない日本文化史あるいは日本文明史を再構築する試みであるともいってよい。そのため時代と研究テーマを限定せず、研究期間の前半は「日本仏教における浄と穢」「日本仏教における生と死」など時代横断的な研究テーマでの探求を進め、後半の期間はその総合化に全力をそそぎ、新たな仏教史像を提示する。

(2)さまざまな分野の研究者が共同研究を行い、それを総合的な仏教史像として示す

既述のように、本研究組織構成員は、日本仏教総合研究において、既に10年以上議論を行い、2011年12月実施したシンポジウムのごとく、共同研究の基盤は成熟している。本研究では、日本仏教学と日本史学の研究者をはじめ国文学・美術史など隣接諸分野研究者を招聘するとともに、他分野の研究者をも含めた報告書の検討会を実施する。そして、各分野の研究者を結集した新たな研究組織作りを達成する。

(3)国際的な研究交流を実現し、有能な若手の人材も発掘する

本研究組織の構成員は各々が海外の研究者や研究機関に接点を持ち、それを組織化することで、新たな研究の広がりが獲得されるものとする。従来は国際交流は、日本人研究者側の都合が優先されがちで、果たして海外の研究者にとって、特に若手研究者にとって有益であったか疑問である。本事業では、国内外の研究者と交流し、共同研究の機会を確保することに重点を置き、従来とは異なる成果を目指す。若手の人材発掘にも積極的に取り組む。

(4)日本仏教史の概説書を刊行する

本研究の5年間の成果を反映し、日本の一般読者を対象とする日本仏教史の概説を刊行する。そこでは、これまでにない包括的かつ斬新な通史叙述を目指す。さらに、外国人研究者の協力を得た研究会活動や、(3)の国際交流の成果を活かし、英文の概説書も作成する。翻訳するさいには、文章構成のみならず、論理構成もすべてあらため、欧米の日本仏教史(日本仏教学)以外の研究者も十分理解が可能な書籍に仕上げる。そのために、研究分担者(日本側)に外国人研究者を加えたプロジェクト・チームを結成する。

以上の活動を推し進めることによって、日本仏教研究の全体像を明らかにする道が開かれる。従来は、各宗派の枠内や、各時代の範囲内で完結する傾向が強かった。近年は、そうした問題点を自覚した少数の研究

者によって、領域をまたいだ研究成果が現れつつある。本研究もそうした方向性を指すものであるが、個人の努力にとどまらず、関係する学会組織と連動するなど、集団化・組織化した形で実施することにより、個別の活動では不可能な総合的かつ体系的な成果を生み出すことで、新たな段階の達成を目指す。

3. 研究の方法

まず、国内外における研究集会の開催により、研究代表者と研究分担者を中心に、仏教学と歴史学をはじめ様々な立場から議論を行うことで、個別の領域にとらわれない日本仏教思想史の把握を試みる。特に、近年大幅な進歩が見られる大寺院の資料調査の成果を、十分に吸収することを考える。この分野は、大量の新資料の発掘をもとに新たな発見も多く見られるが、主に文学関係の研究者の手になるためか、個別の資料や分野に即した分析にとどまり、成果が日本仏教史の中に正しく位置づけられているとは言えない。各分野の専門家が集い、総合的な立場からその課題に取り組むことで、はじめて文献研究の新領域を開くことが期待できる。

さらに組織的な活動を基盤として、その内容を世界に発信することで、特定の人脈に頼りがちな現状では不十分となっている海外の研究者との交流を、十全なものに高めていきたい。近現代の仏教研究では多少関心を持たれつつあるものの、学界全体としては意識されることの薄い「日本的」「現代的」な特色について、ともすれば閉塞された国内の学界を飛び出し、自由な発想のもとで対話を重ねることで、明らかにしていく。

そうした目的を果たすために、主に三つの活動を行う。第一に、研究代表者と分担者の間で年3回のペースで研究会を開き、国内外の研究状況を分析し、研究集会の報告者や書評の対象を選定する。第二に、国内外で研究集会を開催し、報告やパネルセッションを通じて、本研究の目的である、研究の視点と成果の共有を図る。またその際に、ベテランや中堅の研究者だけでなく、若手研究者を積極的に登用する。特に海外の若手研究者は、費用や語学の問題などで多くの困難がある。本研究の活動によりそれを軽減し、新世代の日本仏教研究者を海外にも育成することを狙う。第三に、最終年度はそれまでの活動を基盤として、国際シンポジウムの開催と概説書の刊行を行う。そして、広く成果を関連する研究者、さらには国民に還元する。

現在の関係する研究状況を考えるとき、仏教思想の現代的な意義を再考し、あるいは日本文化に日本仏教が与えた影響を明らかにするためには、上記のような活動を集中的に実施することが必要である。本研究によって、そうした結果を得るための筋道が示されると考えている。

4. 研究成果

毎年3回程度、研究代表者と研究分担者、および研究協力者（の一部）が集まり、例会を開催し、活動の方針や計画を相談した。その結果にもとづき活動することで、以下のような成果を挙げることができた。

(1) 国内における研究集会の開催

研究代表者の所属先である早稲田大学（東京）を会場として、平成25～27年度は2回ずつ、28～29年度は1回ずつの研究集会を開催した。報告者はのべ37名（うち1名は講演）にのぼり、そのうち約3分の1は40歳以下の若手、また外国籍研究者が半数近くを占めた。異なる世代や国際的な交流の場を実現したといえる。25～27年度は各1回ずつ、研究集会の際に見学会を併催し、各寺院の僧侶の案内により寛永寺、増上寺、浅草寺を見学した。所属する僧侶による詳しい解説に加え、通常は許可されない箇所も特別に拝観を許され、特に外国籍研究者や若手研究者に好評であった。

(2) 海外における研究集会の開催

本研究の目的を達成するため、毎年1回のペースで海外での研究集会を実施した。まず平成25年度に準備のため、研究代表者ほか1名が渡米し、米国宗教学会（AAR）において関連する外国籍研究者との意見交換等を行い、協力を要請した。それ以前から構築してきた研究者ネットワークをも活かし、平成26～29年は年に1回のペースで、海外での研究集会を開催した（ハワイ大学、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、七塔禅寺、ナポリ東洋大学）。合計4回の研究集会における報告者は、のべ37名にのぼる。毎回必ず開催地の著名な研究者に報告をお願いし、海外の日本仏教研究の状況把握につとめた。また科研メンバーからも1～2名が報告し、日本の仏教研究をめぐる議論の場を設けた。

一方で中堅以上の研究者だけでなく、研究代表者が所属する早稲田大学を中心に、研究分担者が所属するそれ以外の大学の大学院生なども参加した。特に平成28年度の研究集会では、全発表者16名のうち若手研究者が13名を占め、初めて国際学会で研究報告の体験をする機会が得られた。

(3) 日本仏教の概説書の編集・刊行

研究成果の社会への還元を目指して、初学者から専門研究者まで利用できる日本仏教の概説書（各章の英文要旨を含む）作成に着手し、研究代表者・分担者・協力者の6名が共同執筆した大久保良峻編『日本仏教の展開』を春秋社から刊行することができた。

以上(1)～(3)の成果により、我々を含む多くの研究者が、異分野や他国の研究に接し、刺激を受け、今後の研究について考える機会を得た。また、概説書の編纂を通じ、多様な関連分野の総合化を検討することができた。これらを基盤とすることで、従来以上に日本仏教の全体像や独自性を意識した研

究が進むこと、特に若い世代で活性化することを期待している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 39 件)

大久保 良峻, 台密と天台本覚思想, 仏教文学, 査読無, 42, 2017, 107-119.

大久保 良峻, 六種振動と天台義, 天台学報, 査読有, 59, 2017, 11-19.

曽根原 理, 鹿兒島東照宮の成立 百回忌法会を中心に, 季刊日本思想史, 査読無, 82, 2017, 68-89.

曽根原 理, 東照権現の成立 山王神の系譜から, 神道宗教, 査読無, 248, 2017, 4-23.

吉田 一彦, 飛鳥の仏教の文化圏 道慈以前の日本の仏教, 蔵中しのぶ編『古代の文化圏とネットワーク』竹林舎, 査読無, 2017, 331-355.

大久保 良峻, 最澄から安然へ 初期日本天台の根本的展開, 仏教学セミナー, 査読無, 103, 2016, 15-45.

大久保 良峻, 台密の時間論, 天台学報, 査読有, 58, 2016, 1-9.

大久保 良峻, 安然撰『教時問答』の基礎的考察, 三友健容博士古稀記念論文集刊行会編『智慧のともしび アビダルマ佛教の展開』山喜房佛書林, 査読無, 2016, 255-269.

曽根原 理, 日本近世の神仏習合神道と東アジア思想 文芸研究, 査読有, 182, 2016, 25-36.

蓑輪 顕量, 日本仏教における継承と伝統, 浄土真宗総合研究, 査読無, 10, 2016, 13-30.

蓑輪 顕量, 止観研究の歴史とその現代的意義, 印度学仏教学研究, 査読有, 65-1, 2016, 1-10.

菊地 大樹, 里山と中世寺院 民衆仏教の展開, 久保智康編『日本の古代山寺』高志書院, 査読無, 2016, 217-244.

菊地 大樹, 笠原一男 戦後歴史学と総合的歴史叙述のはざま, オリオン・クラウタウ編『戦後歴史学と日本仏教』法蔵館, 査読無, 2016, 157-184.

菊地 大樹, 『明月記』と『三長記』, 明月記研究, 査読無, 14, 2016, 114-123.

大久保 良峻, 台密の十界説, 大久保良峻教授還暦記念論集刊行会編『天台・真言・諸宗論攷』山喜房佛書林, 査読無, 2015, 3-21.

蓑輪 顕量, 良忍の念仏 その念仏の名称と念仏偈を再考する, 大通上人三百回御遠忌奉修局編『融通念仏宗における信仰と教義の邂逅』法蔵館, 査読無, 2015, 59-74.

吉田 一彦, The Credibility of the Gangoji Engi, Japanese Journal of Religion Studies, 査読無, 42/1, 2015, 89-107.

菊地 大樹, 日本中世における宗教的救済言説の生成と流布, 歴史学研究, 査読有, 932, 2015, 2-14.

上島 享, 本願手印起請の成立 真つ赤な手印が捺された文書をめぐって, 鎌倉遺文研究, 査読有, 35, 2015, 1-28.

吉田 一彦, 過去の支配, 犬飼隆・和田明美編『語り継ぐ古代の文字文化』青簡舎, 査読無, 2014, 99-124.

[学会発表](計 38 件)

大久保 良峻, 最澄・台密研究の諸問題, 第2回国際天台学会議(招待講演), 2017.

大久保 良峻, 自受用身に関する若干の問題 前後自受用を中心に, 天台学会, 2017.

曽根原 理, A Study on "Hokeyo-Jikidan sho", International Symposium "Exploring Two Wings of Buddhism in the World (2)", 2017.

曽根原 理, Disavowing Oral Transmissions, 15th International Conference of the European Association for Japanese Studies(EAJS), 2017.

蓑輪 顕量, Acceptance of Mindfulness in Medieval Japan, focusing on the Hosso and Zen sects, International Symposium "Exploring Two Wings of Buddhism in the World (2)", 2017.

曽根原 理, 松雲大師と徳川家康 仏教が結んだ善隣友好, 四溟大師国際学術大会, 2017.

上島 享, 神勸請儀礼の歴史の変遷 インド・中国・日本, 佛教史学会・アジアにおける仏教と神信仰研究会共催シンポジウム「日本とアジアの神仏の融合の諸相」(招待講演), 2017.

大久保 良峻, 六種振動と天台義, 天台学会, 2016.

大久保 良峻, 台密と天台本覚思想, 仏教文学学会(招待講演), 2016.

上島 享, 神仏習合研究を問い直す, International Symposium "Exploring Two Wings of Buddhism in the World (1)", 2016.

上島 享, 古代・中世における論義法会の歴史の変遷とその意義 朝廷と南都・北嶺の論義法会, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター主催シンポジウム「南都学・北嶺学の構築に向けて 論義と儀礼」(招待講演), 2016.

菊地 大樹, 鎌倉仏教の二つの方向 密教から考える, 智山勸学会談話会(招待講演), 2016.

菊地 大樹, Revaluating Jikyosha as the mountain ascetics, 国際法華経会議, 2016.

大久保 良峻, 台密の時間論, 天台学会, 2015.

大久保 良峻, 最澄から安然へ 初期日本天台の根本的展開, 大谷大学仏教会(招待講演), 2015.

曾根原 理, The Lineage of the Sanno Deity, International Association History of Religious (IAHR) Quinquennial 21th World Congress, 2015.

蓑輪 顕量, 日本仏教における戒律を再考する, 日本仏教総合研究学会, 2015.

大久保 良峻, 平安初期における日本密教の樹立と教学交渉, 平成 26 年度密教研究会学術大会 (招待講演), 2014.

大久保 良峻, 最澄の名言, 天台学会, 2013 年.

〔図書〕(計 7 件)

大久保 良峻編, 春秋社, 日本仏教の展開 文献より読む史実と思想, 2018, 384.

曾根原 理, 岩田書院, 徳川時代の異端的宗教 戸隠山別当乗因の挑戦と挫折, 2018, 182.

大久保 良峻, 法蔵館, 最澄の思想と天台密教, 2015, 388.

蓑輪 顕量, 春秋社, 日本仏教史, 2015, 261.

大久保 良峻編著, 法蔵館, 天台学探尋, 2014, 342.

蓑輪 顕量編, 吉川弘文館, 事典 日本の仏教, 2014, 576.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://international-study-buddhism.webnode.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大久保 良峻 (Okubo Ryoshun)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号: 30213664

(2) 研究分担者

吉田 一彦 (Yoshida Kazuhiko)

名古屋市立大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号: 40230726

蓑輪 顕量 (Minowa Kenryo)

東京大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号: 30261134

曾根原 理 (Sonehara Satoshi)

東北大学・学術資源研究公開センター・

助教

研究者番号: 30222079

上島 享 (Uejima Susumu)

京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号: 60285244

菊地 大樹 (Kikuchi Hiroki)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号: 80272508

(3) 研究協力者

林 淳 (Hayashi Makoto)

愛知学院大学・文学部・教授

研究者番号: 90156456

原田 正俊 (Harada Masatoshi)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 40278883